



## 写真で見る社会科

### 今も残る負の遺産 ポーランド

ポーランドの歴史は、異民族による侵攻とそれに対する抵抗の歴史でもある。かつてドイツとソ連という大国に挟まれていたため、悲劇の歴史を歩んできた。第二次世界大戦は1939年ヒトラーのナチスドイツによるポーランド侵攻から始まっている。その後のドイツとソ連による分割で国土がなくなってしまった上に、大戦の中で破壊の限りを尽くされた。ポーランドはその悲劇の歴史を乗り越えて立ち直った。大戦末期の1944年8月、ワルシャワ市民は一斉蜂起し、優勢なナチスドイツ軍と2か月間もの間戦い続けた（写真④銃を持ってドイツ軍に抵抗する少女の像）。その抵抗の激しさに驚いたドイツ軍は、建物を片っ端から焼き払い、ワルシャワの街を徹底的に破壊した。市街の8割以上が灰燼に帰し、市民の犠牲者は20万人以上にも上った。このように都市の形をとどめぬほどに破壊され尽くした首都ワルシャワの姿は、今も旧市街のあちこちで当時の写真を見ることができる。大戦後、ワルシャワ市民は、戦前の写真や画家が描いた絵などの記録を頼りに「壁のひび1本」に至るまで忠実に復元し、旧市街を元通りに復興した。ここに歴史に翻弄されてきたポーランド人の不屈の精神を感じることができる。破壊から復興した旧市街（写真②市場広場）は、ワ

ルシャワ歴史地区として1980年に世界遺産に登録された。

もう一つ、ポーランドで忘れてはならないものがある。映画「シンドラーのリスト」でも登場するナチスドイツの強制収容所アウシュビッツ（ポーランド語でオシフィエンチム）である（写真③）。第二次世界大戦中、このガス室を持つ絶滅収容所で殺された人々の数は、ユダヤ人を中心に28の民族、150万人といわれている。この悪名高い収容所は、ポーランド南部の古都クラクフの西約50kmに位置し、1979年人類の負の遺産として世界遺産に登録された。このように保存し、それを後世に伝えていくことによって、二度とあのような過ちは犯してはならない、次の世代にも繰り返させてはならないという、強い意志がここに表れている。クラクフはかつてポーランド王国時代、首都として栄えた街であり、ヴィスワ河畔の丘にそびえる王宮には、歴代のポーランド王が住んでいた。第二次世界大戦で多くの都市が破壊された中、クラクフはドイツ軍の司令部が置かれていたため戦災を免れ、現在に中世のたたずまいを残している貴重な街である。クラクフは、よく日本の京都にたとえられ、その歴史的な町並みは1978年に世界遺産に登録された（写真①旧市街）。（浜松市立湖東中学校 鈴木孝昭）

#### 写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。国内・海外で撮影された社会科の写真を、資料編集部「中学校社会科のしおり」係までお送りください。